

平成 21 年度「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」共同利  
用型公募研究報告書

中村 友一（中部大学）

アフガニスタンから中央アジア諸国を經由し、ロシアや欧米諸国へと至るルートは、アフガニスタン産のアヘン、ヘロインの約 3 割が取引される主要な密売ルートとなっている。このルートを利用した取引は 1990 年代後半に急増し、現在に至るまで高い水準を保っている。そこでは、麻薬が生む利益を求めて、国家、非国家組織、個人など多様なアクターが関わっている。その結果、密売ルート上の中央アジア諸国は社会の各レベルで麻薬取引への関与を余儀なくされ、政治・経済・社会の各部門において重大な影響をこうむった。とりわけ、麻薬経済の浸透とそれがもたらす巨大な利益は、中央アジアにおける直接的暴力・構造的暴力・文化的暴力の主要な原因となり、各国の国内政治と国家間関係はそれに翻弄された。今後も、中央アジア地域の安全保障と開発を考える重要な論点として、麻薬の問題は捨象することができない。そのような状況認識と問題関心から、中央アジアにおける麻薬取引の現状とその影響を分析してみようと考えていた。

しかしながら、対象の多くがいわゆるアンダーグラウンドな領域である。とりあえず、麻薬の流れとそれが生み出す利益、およびそれがもたらす暴力という全体のプロットは構築することができた。しかし、アクター間の関係などの具体的なデータについては伝聞や推定によるものが多く、手持ちのものがどこまで信頼に足るのか把握できないことが多かった。叙述の手がかりがつかめない状況にあったちょうどその時期にたまたま、スラブ研究センターが共同利用の公募を行っていることを知った。集中して資料や既存研究の渉猟と整理を行うよい機会であると考えて応募したところ、幸いにも採択していただく運びとなった。

秋と冬、各 1 回のセンター訪問で滞在は合計 7 日という短期間で、新聞資料の読解に十分な時間を割くことができなかつたうらみはあったが、センター図書室所蔵資料の閲覧・複写を中心に、現時点での研究動向を把握し論考を組み立ててゆくうえできわめて有用なデータを得ることができた。それをもとに、すでに今年中の公表を目指して、論文作成に着手している。さらにその成果を踏まえて、中央アジアにおける利益と暴力の問題により広い視点から取り組んでゆこうと考えている。末筆ながら、今回の訪問でお世話になったセンターのスタッフおよび図書室スタッフの皆様にご心よりお礼を申し上げたい。